

長良川と「長良川鉄道」

写真は毎日新聞 7月15日朝刊「東海ワイド フォト」。ガタンゴトン～ローカル線にゆられて、長良川鉄道「出迎える清流の涼」。

清流に涼を求めて、長良川鉄道に乗った。美濃太田（岐阜県美濃加茂市）－北濃（郡上市）の72.1キロメートルを結ぶ。元々は岐阜県と福井県を結ぶ越美線として計画されたが全通せず、北濃駅(1934年開業)までの越美南線となった。86年に旧国鉄から第三セクターの長良川鉄道に引き継がれた。ほとんど1両編成のワンマン運転。

美濃太田駅を出発した。学生やお年寄りを乗せ、住宅地や田んぼの中をゆっくりと走る。美濃市駅からは乗客もまばらになる。そして湯の洞温泉口駅あたりから、列車は長良川沿いを走る。ディーゼルの心地よい振動に体をまかせて川を眺めているうち、みなみ子宝温泉駅に着いた。ここから3駅目の美並菟安駅で降りた。長良川は、すぐそばを流れている。青く透き通る清流の浅瀬には、アユを求める釣り人が並ぶ。



この記事と写真に注目したのは、遠い昔、高校時代に越美南線「深戸」駅の鉄道官舎で過ごしたからだ。深戸は当時「郡上郡美並村」であり、郡上八幡駅の二つ手前の小さな駅。親父は飛騨高山から、この駅に転勤した。私も高山の斐太高校から郡上高校へ、2年に転校した。駅に隣接する官舎から、郡上八幡まで越美南線で通学した。レポートにも書いたように、なにせ数時間に1本の運行であり、寝坊すると大変だった。帰りも乗り遅れまいと、高校から駅まで遠い道のりをよく走ったものだ。

写真と同じように、駅のすぐ前を長良川が流れている。親父は休みの日など、近所の人の手ほどきにより、アユの「とも釣り」に出かけた。でも、いつも成果は芳しくなかった。近所の人に新鮮なアユを頂戴し、コンロで焼いて食べたが、さすが美味かった。ひとりで川の浅瀬に行って、魚を捕まえようとしたが、魚の逃げ足は速かった。ある時川の深みにはまっただと思ひ込み、溺れて死ぬ思いをした。清流長良川の自然を満喫して、郡上の青春時代を過ごし、なんとか信州大学に滑り込むことができた。長良川と長良川鉄道の写真から、久しぶりに郡上高校の頃を思い浮かべた。

(2017年7月23日)